滋賀県文化振興基本方針（第３次）評価指標について

資料1−1

【施策の柱Ⅰ　場をつくる】

評価指標	評価事項	把握方法	策定時（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標（R7年度）
①1年間に文化芸術を鑑賞したことのある県民の割合(%)	県民が文化芸術に親しめているかを測るもの。	県政モニターアンケート調査（R7.6）	(73.7) ※直接鑑賞のみ	84.4	93.4	93.4	94.8	**92.0**	85.0
②文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合(%)	県民が文化芸術に親しむ環境が整っているかを測るもの。	県政世論調査（R7.6）	38.4	41.1	34.2	36.0	41.9	**37.9**	50.0
③学校と連携した文化芸術プログラムの参加児童数(人)	子ども･若者の文化芸術に親しむ機会の確保のため、県が学校授業において文化芸術の体験機会を提供できているかを測るもの。	県の事業実績による	22,699	16,623	21,154	21,470	22,749	**22,816**	26,000
④民間団体や市町等と連携した文化芸術事業実施数(件)	県が民間団体や市町等と積極的な連携･協働を行えているかを測るもの。	県の事業実績による	369	298	364	385	388	**319**	420

① 電子機器での鑑賞も増加し、概ね90%以上を達成
② 環境整備に対しては40%前後で推移しており、居住地域、経済状況、年齢や障害の有無にかかわらず、文化芸術に触れられる場が必要
③ 目標には達しなかったものの「ホールの子」事業をはじめとする文化芸術プログラムの参加児童数は増加し、豊かな感性や想像力の育成に寄与した。
④ 令和６年の県立美術館40周年関連イベントの実施もあったが、終了した事業も多く、継続的な交流・連携が課題

滋賀県文化振興基本方針（第３次）評価指標について

【施策の柱２　人を育む】

評価指標	評価事項	把握方法	策定時（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標（R7年度）
⑤1年間に文化芸術の創作活動に携わったことのある県民の割合（%）	県民が文化芸術の創作活動やつなぎ支える活動に参加しているかを測るもの。	県政モニターアンケート調査（R7.6）	（63.5）※創作活動のみ	26.6	34.2	41.4	45.0	**40.8**	77.0
⑥研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合（%）	文化芸術をつなぐ人材の能力向上ができているかを測るもの。	県の事業実績による（受講者アンケートを実施）	―	90.7	88.4	90.1	77.4	**78.1**	80.0
⑦県立文化施設の文化ボランティア数（人）	県内の文化芸術を支える人材の活動状況を測るもの。	県の事業実績による	635	612	613	563	577	**591**	750

⑤⑥⑦

文化芸術の持続的な発展に向けて、文化芸術を身近に感じてもらうきっかけづくりを行い、担い手や後継者の育成やファンの拡大に向けた取組が必要

令和7年度県政モニターアンケートより
・活動していない理由：「きっかけがない」、「時間的余裕がない」、「鑑賞で十分」等
・「ボランティアに関わったことがある」または「関わったことはないが興味はある」＝77.1%

滋賀県文化振興基本方針（第３次）評価指標について

【施策の柱３　地域や社会に活かす】

評価指標	評価事項	把握方法	策定時（R元年度）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標（R7年度）
⑧県内の指定文化財等の数（件）	県が文化財の調査・保存を推進できているかを測るもの。	国・県・市町の指定等実績による	3,465	3,522	3,533	3,570	3,590	**3,604**	3,585
⑨文化財を活用した県実施事業参加者数（人）	県が文化財の活用を推進できているかを測るもの。	県の事業実績による	2,813	3,337	3,611	3,774	3,527	**4,832**	3,160
⑩地域に魅力や誇りを感じる文化芸術資源があるとする県民の割合（%）	県民が地域にある文化芸術資源の価値を認識し、魅力や誇りを感じているかを測るもの。	県政モニターアンケート調査（R7.6）	—	70.7	81.1	74.6	80.3	**82.4**	85.0
⑪地域において文化芸術と他分野との連携した取組があるとする県民の割合（%）	地域において、文化芸術と他分野との連携した取組が広がっているかを測るもの。	県政モニターアンケート調査（R7.6）	—	60.9	66.7	68.4	74.7	**76.3**	50.0

⑧　維持管理や保存修理事業への助成等を行い、文化財の調査・保存を推進した。
⑨　令和７年度は新・琵琶湖文化館関連イベント、「幻の安土城」復元プロジェクト等での参加者数が大幅に増加し、目標を大きく上回った。
⑩　歴史的な建造物や文化財、伝統芸能・行事等に魅力や誇りを感じる県民が多かった。
⑪　まちづくりや観光等他分野との連携が進んだ。